

連絡先

医療法人養和会 松本 みゆき  
TEL 0859-29-5351  
Mail matumoto\_m@yowakai.com



医療法人養和会  
松本 みゆき 看護師

「ピンクリボン運動」は、「乳がんで悲しむ人を一人でも減らしたい」との想いから1980年代にアメリカで活動が始まり、2000年ごろから日本でも盛んになってきました。ピンクリボンは、乳がんについての正しい知識を広め、検診やセルフチェックなど、乳がんの早期発見・早期治療の大切さを伝える活動の世界規模のシンボルマークです。

女性の「9人に1人」がかかる乳がん。あさがおに集うメンバーも乳がん罹患者は多いです。この機会に、正しい知識を知って、検診へ出掛けてみませんか。



## 第39回 あさがおを開催しました！



初めて参加される方、1年ぶりに参加される方。経過観察中の方、これから手術を受ける方など、立場は違うけれど、親、兄弟、家族に「がん」をどう伝える、話をしたら良いのか…悩ましい問題。それでも、様々な人の経験、考えを聞くことで、参考となり、私一人ではないことを感じる。そのことが何より嬉しい。今回の会も、笑顔が繋がりました。

### 第40回 あさがお

**日時** 10月29日（日）13時～15時


**場所** オレンジサロン（ハイブリッド開催）

第41回 11月28日（日）13時～15時

— 毎月開催 — 奇数月：第4火曜 偶数月：第4土曜 —

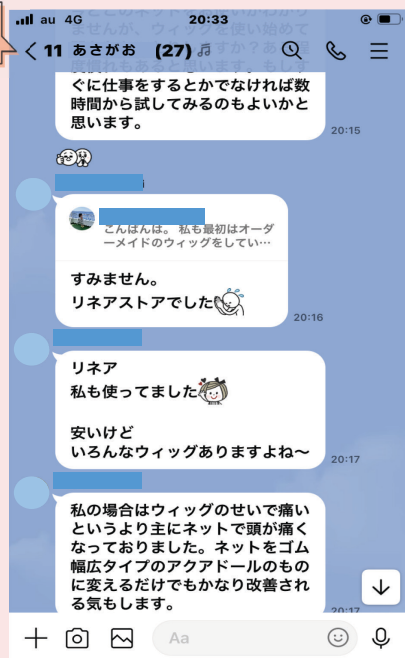
奇数月は“ゆうがお”として夜に開催します！  
20時～21時（19時～Zoomを開放・自由に出入り可）  
参加希望の方はお気軽にお問い合わせ下さい！

オンラインでの参加希望の場合は、  
事前に参加申込みをお願いいたします。



### グループLINE

乳がん治療で抗がん剤による脱毛があり、ウィッグを使用してもあるのか痛みを感じるという相談があれば、グループLINEメンバーでウィッグ経験者が、体験したこと、工夫していることなどを直ぐにコメント。グループLINEの中で質問、情報交換をしています。



あさがおの開催などの情報を掲載しています。ぜひご覧ください！



### 参加者のコーナー

### 今月のテーマ「お気に入りのベストショット！」



シロイルカ  
いだも



シップスキャット  
橋本比呂子



チェリーロード  
スマホで撮りました



夕焼け鉄橋  
マルちゃん

あさがお参加者、グループLINEメンバーからいただいた作品

次回の写真テーマ：『秋を感じる一枚』

朝晩が涼しくなり秋の気候になってきました。皆さんが感じた秋の一枚を募集します！ジャンルは問いません。お待ちしております☆



## 「子どもたちに伝えていくこと」

幸田ふみ

2019年夏、41歳の私は乳がんステージ3bと診断された。当時我が子は長女小1、長男年中、次女1歳になったばかりと、まだ3人ともが幼い時だった。大きな病気とは無縁と勝手にそう思っていた自分に、ドカンと降ってきた人生最大のピンチ。診てもらった先生に初っぱなから「このままでは命が危ない」と言われ、その後いつかのタイミングでも5年生存率は50%という話も聞いた。すぐに手術はできなかったのも、まずは入院したり通院しながら抗がん剤治療をし、その後手術、放射線治療、ホルモン療法と続いた。

私は自分が病気になったことを子どもたちや家族、周りの人に伝えることにためらいはなかった。自分が逆の立場なら話してもらう方がいいし、隠されるとつらくなるから。伝えることに一番勇気がいったのは母だった。心配させてしまうという思いと、泣くつもりなんてないのに、絶対自分が泣いてしまうと分かっていたから。

子どもたちにはそれぞれの年齢に合わせて、分かる言葉、分かる内容で、なるべく重くならないように伝えた。「母さん大きな病気になっちゃって、病院に何回も行ったり入院もするけど、とりあえず頑張るよ。」と。どうなるかは分からないので「大丈夫だよ！」とはちゃんと言えなかったかも。長女には死ぬこともあることを含め少し詳しく話すと、不安で涙も出ていたが、「頑張ってね」と手紙をくれた。

あれから4年。今、病気は落ち着いており、ありがたいことに元気に過ごさせてもらっている。でも時々体の不調を感じると常に、またそうかも...?と不安がよぎる。今年の始めにもPET検査で先生からお呼びがかかり、かなりドキッとした。あれこれ調べてもらったが、何事もなくホッと一安心。その時、さあ、家族にどう話そうかと考えてふと思った。4年前は子どもたちが小さかったからためらいなく伝えようと思ったが、今、小5の娘に現実を話せるか。心の成長が分かるだけに、本当のことをどういう言葉で伝えられるか。今回は話すことなくスルーできたので、重くギュッとした気持ちにならずにすんだが、相手の年齢、性格、捉え方によって、話し方、伝え方を私は考えるかもなと思った。

今後、私は子どもたちに伝える課題がもう一つある。私は検査の結果、乳がん卵巣がん症候群(HBOC)であることが分かった。子どもたちも1/2の確率でその可能性がある。伝えるのはもう少し大きくなってからでいいとのことで、詳しい話はまだしていないが、先日話の流れで長女とその話題になり、少し説明してみた。遺伝とは?で引っかかり、家系図を書いてみたがこれがなかなか難しく、あれこれ考えているうちに娘は飽きてマンガを読み始めた。ケタケタ笑いながら読んでいる横から、こうでこうでこうなって...と話をするが、半分も聞いちゃいない。今伝えてもあまり現実味はないよなと諦めて、「分かるようになるまでしつこく説明してあげるわ!」とプリプリ怒りながら、冗談半分に笑って話した。

きちんとした説明はいずれ3人共にしようと思う。でも母に伝えた時のようなあの気持ちをこの子たちが味わうことなく、元気に健やかに、病気にならずに過ごせますようにと祈るばかりです。

